

南仏治安情報 (2011年9月)

■プロヴァンス地方

1. 武器を用いた強盗・恐喝事件が増加傾向

9月には地方紙が報じたものだけで22件(内16件はマルセイユ市)の強盗・恐喝事件が発生しました。中でも大型ショッピングセンター内の宝石店とタバコ屋が繰り返し被害に遭っています。プーシュ・デュ・ローヌ県では2011年上半期(1~6月)に479件(内マルセイユ市289件)の武器を用いた強盗事件が発生しており、近年の増加傾向から警察は警戒を強めています。

2. 駐車車両からカーナビゲーションを窃取する事件が頻発

ここ数ヶ月マルセイユ、エクス・アン・プロヴァンス、ヴィトロール、オバーニュ等で、駐車中の車両(フォルクスワーゲン、アウディ等)からカーナビゲーションが盗まれる窃盗事件が頻発しています。フロントガラスを叩き割った後、巧妙にカーナビゲーション外し盗む手口が主で、マルセイユでは1日平均2~3件の被害が報告されています。盗まれたカーナビゲーションの部品は偽造クレジットカード作成にも使われているようです。ご注意ください。

3. 市場に氾濫する模造銃

マルセイユ市の玩具店ではショーウインドウに数多くの模造銃が陳列され、かなりの売り上げを見せているようです。中には収集家用にかなり精巧に作られているものもあり、警察官でも本物との見分けが難しいといわれています。最近頻繁に起こっている強盗事件でも模造拳銃が用いられるケースがあることから、模造銃を扱う店と購入者のモラルが問われています。

4. 南フランスで麻疹(はしか)流行の兆し

今年に入りRougeole(麻疹)の感染者数が増えています。2008年からの調査ではこれまでに2万人の感染が報告されていますが、内1万4千人は今年に入ってからで、特に南フランスでの発症例が多いようです。乳幼児だけでなく大人の患者も多く、改めて予防接種を行うよう呼びかけられています。

■コートダジュール地方・コルシカ島

1. ニース市中心部でのひったくりに注意

ニース市中心部のJean-Medecin大通りやSNCF駅周辺では、9月に入り地方紙が報じたものだけで7件のひったくりが発生しました。単独犯による犯行が多く、被害者は男女を問わず高校生から高齢者まで様々です。犯人が、通行人の通報や目撃情報により犯行後逮捕されるケースもありますが、一瞬の出来事で目撃情報がないケースも多く容赦なく被害者に暴力を振るう事件も多いので十分注意が必要です。

2. ジョギングコースの不審人物

ニース市北部に位置する林間道Col de Bastでは散策やジョギングをする人が多いですが、1ヶ月ほど前から不審人物が目撃されています。この道はニース市の所有になっていますが、その人物は自分の私有地だと主張し斧や長い山刀を手に猛犬を率いて立ち退くよう脅したり、暴力を振るったりしているようです。この地域の立ち入りにはご注意ください。

3. レンタサイクル (Velo bleu) の盗難が多発

ニース市を中心に 2 年前から実施されているレンタサイクル (Velo bleu) の利用者が年々増え、今年 8 月のピーク時には一日に 3000 台が利用されるほど普及を見せています。ニース、St-Laurent-du-Var、Cagnes-sur-Mer の 175 箇所の駐輪所には合計 1750 台が配置されています。ただ盗難や破壊も多く、既に約 700 台、平均 1 日 1 台が被害に遭っているようです。

4. トコジラミの大発生に注意

アルプ・マリタイム、ヴァール及びブーシュ・デュ・ローヌの 3 県では、医師団の警告により Punaises de lit (和名トコジラミ) の駆除作業が行われています。この虫は体長 5 ミリ程度でマットレスなどに隠れて吸血し、刺された場合はかゆみが強い他、時には全身に発疹が現れるなどのアレルギー反応を起こします。第二次世界大戦後、殺虫剤の普及により一度は先進国で姿を消しましたが、旅行者の荷物などにより移動を重ね、かつ殺虫剤への耐性もつけたため、世界の大都市でも近年流行が見られています。駆除作業等についての情報は 04.92.03.62.54 までお問い合わせください。

■ミディ・ピレネー地方

1. 暴力事件の 90%は飲酒を伴う

トゥールーズ市中心部、特に Saint-Pierre 広場では、毎週末多くの学生達で賑わいますが、泥酔した若者による喧嘩や暴力事件も後を絶ちません。警察によると、市内で発生する事件の 9 割は泥酔者によるものであるようです。22 時以降のアルコール飲料の販売禁止や、警察のパトロール強化により事件数は減少傾向にあります。当地区への外出の際はご注意ください。

2. グループによるひったくりの手口

高性能の携帯電話、金の装飾品などを狙ったひったくりは、依然として頻繁に発生していますが、9 月には特に 2~5 人組による犯行が目立ちました。中には親子 4 人組で犯行に及ぶケースもあり、被害者は性別、年齢に関わらず、屈強な男性でも犯人グループに囲まれて突き飛ばされたり、暴力を振るわれた後に貴重品を盗まれています。

3. 空き巣に改めて注意を

夏のバカンスは終わりましたが、当地方では相変わらず空き巣被害が多く報告されています。9 月には地方紙が報じたものだけでもトゥールーズ市及び郊外で 12 軒の家屋が被害に遭い、犯人の多くは未だ見つかっていません。モンペリエ市郊外では 9 月に入り未成年者の 2 グループが逮捕され、今夏に起きた十数件の空き巣被害への関与が明らかになりました。

4. トゥールーズ市の監視カメラ強化

トゥールーズ市内を走るバス、メトロを運営する会社 Tisseo では、現在合計 2,142 台の監視カメラを設置し、車内や駅構内などで事件が発生した際に役立てています。また、トゥールーズ市でもカメラ 24 台を市内に設置し、その内 17 台は 24 時間体制で職員により監視されています。市では今後も更にカメラを増強していく予定です。

* 以上の治安情報は、当地地方紙等から得られた情報に基づくものです。